

令和5年度第2回大磯町社会教育委員 会議 議事録

1. 日時 令和5年11月10日(金)
午後2時～4時
2. 場所 大磯町立図書館2階大会議室
3. 出席者 鈴木 敦子 議長
野口 裕美 副議長
瀬戸 亨一 委員
土方 公雄 委員
石塚 すま子 委員
荻原 まさみ 委員
織戸 明 委員
上野 広子 委員
加藤 理絵 委員
事務局 教育長 熊澤 久
教育部長 大槻 直行
生涯学習課長 北水 慶一
生涯学習課副課長 熊澤 香織
生涯学習係長 東 真江
社会教育指導員 大友 さやか

4. 傍聴者 1名

1. 開会

- ・議長挨拶
- ・会議成立の確認
- ・傍聴者の有無確認
- ・資料の確認

2. 議題

- (1) 令和5年度生涯学習主要事業の進捗状況について 【資料1～3】

- ・主要事業について

事務局から、令和5年度生涯学習事業の主要事業の進捗について、資料1、「令和5年度生涯学習講座実施状況」をもとに説明を行った。

委員) 講座について、定員を設けたものはあるか。

事務局) 基本的には参加人数というものを決めている。例えば、文化財ウォークでは、参加者と町内を散策する内容だったので、概ね20人の定員を作った。

また、シニア講座スマホ教室の中では、ゆっくり講師のお話を聞きたいということで、16人程度の定員を設定。青少年おもしろ講座でもPCの台数に限りがあるため、概ね20名程度で募集した。

・おおいそ文化芸術祭について

事務局から、おおいそ文化芸術祭の開催について、資料2「おおいそ文化芸術祭の進捗について」をもとに経過の説明を行った。

【経過】令和5年度第1回大磯町社会教育委員会議において、おおいそ文化祭の今後のあり方について検討していただき、令和5年7月付にて答申をいただき、開催案の形成と、芸術祭の開催に向けての準備をしている。

実行委員については、文化、芸術、地域振興に造詣が深い方々、過去の文化祭の運営に携わっていた方などに直接声がけし、7名の方でおおいそ文化芸術祭実行委員会が組織されている。

令和5年9月議会において、おおいそ文化芸術祭実行委員会への交付金を補正予算としてお認めいただき、現在実行委員会が主体となり、開催に向けた準備を行っている。詳細については、プログラムを広報おおいそ11月号と併せて全戸配布を行い周知を図った。

委員) 実行委員を事務局が直接お声がけしてお願いしているとの説明だが、一般的には公募や、母体団体からの推薦によるものが多いと思うが、今回どのような方々にお声がけしたのか。

事務局) 今回は実行委員会の立ち上げということで、そこに御協力いただける方をお願いしている。今後は、おおいそ文化芸術祭でなにかやってみたい、という方々が集まってくるということを期待している。そのため、事務局が方向性を決めていくようなことではなく、実行委員会の皆さんがやりながら探りながら形を作っていくと考えている。予算に何が必要かなど、今後何を行うかによって変わっていく。

事務局) 実行委員会については、現在は7人のコアメンバーにより話し合いがされているが、ほかの団体が参加していただいて構わない。委員会に入らず協力という形だけでも良いと考えている。教育委員会や生涯学習課でコントロールするという事は無い。

・地域学校協働活動の状況について

令和5年4月から地域学校協働活動の取り組みとして、大磯町教育委員会で地域コーディネーターを設置し、各小中学校と地域とのパイプ役となり、大磯地区国府地区のそれぞれの事業を地域コーディネーターに協力・主催していただいている。

内容としては、小中学校運営協議会に参加し、学校運営の方についても、関わりを持ちながら活動をしている。

具体的な事業として、職業体験の体験事業者のマッチングを大磯・国府両地区から商工会への声かけや、事業者へ地域コーディネーターが直接呼びかけを行った。また、国府地区については、自治会や民生委員児童委員、学校安全ボランティアなどに呼びかけして、広く地域の方が参加する国府地区、子どもの安全を考える会を開催し、「こくふ見守り隊」という形で、地域全体で子供たちの見回りをする取り組みを、地域コーディネーターが呼びかけし、様々な方がかかわれる形で、子どもの見守りの体制を準備している。

地域コーディネーターと地域、学校が連携しながら、地域の活性化を進めていくような事業を進めているので、社会教育委員にも協力をお願いしたい。

議 長) 学校関係の委員から意見や感想をお願いします。

委 員) 学校では年度初めに、学校のグランドデザインに学校生活を授業、行事、生活、地域との連携の4つのカテゴリーで分けてある。地域との連携については、先生方が学校の外に出て行って繋がりを持たないと実現ができないものなので、地域コーディネーターに、職場体験の場所のリストをいただいたことで先生方の負担が大変減った。また若い先生方を中心に新しい発想をする職員がいるので、新しい試みに対して、実現に至るかというところで、学校以外の方の連携や繋がりといったものは非常に大事だなと思う。おかげさまで十分学校の活動ができたと思っている。

議 長) 職業体験について、生徒の受け入れをした委員の方はいかがでしょうか。

委 員) 3名の生徒から、職業体験のアポイント、訪問、事前の確認があり、当日を迎えるという段階と、職業体験の後に、素晴らしい活動報告を送ってきてくれたことで、生徒がどのようなことを学べたのかというのもよく理解できた。生徒たちは、レストランは食事をするだけというようにはじめは考えていたが、ファミレスはそうだったけれど、このレストランは、まずは目的があって、お誕生日だったり、結婚記念日だったり、お友達との会食だったり、それをお店の人がわかってする。という驚きや、ナイフを磨くなどについての驚きを聞いた。飲食業界では当たり前だけれど知らなかったねということで、子どもたちにも良い体験だったと思う。文化財で111年経つ対象の建物なので、体験の途中に同じ中学校の生徒さん

の方が、別の事業者での体験学習の生徒さんを連れて見学に来られたのも、学びが繋がり、地域の中でできることをみられたのが自分自身も良い体験だった。これからも続けていただきたいなと思った。

議 長) 同じく職業体験の受け入れをした瀬戸委員、お願いいたします。

委 員) 国府中学校については校長と地域コーディネーターから事前に連絡があり、それから担当の先生と体験する生徒から連絡があった。とてもしっかりした文章で感想をいただき、お礼の文章もいただいた。大磯中学校からも相談があり、4人の受け入れをした。町内の有形文化財や登録文化財が沢山あるので、そこを紹介して喜んでもらえた。

議 長) よく聞く声として、地域学校協働活動やコミュニティスクールは何をやっているのかと聞くのだが、今お話を聞いて、今までは学校が職場体験として何かやっていたようなことが地域を中心に組み組めることが分かり、非常に楽しみな展開だと思う。学校教育課にコミュニティスクール担当主幹という役職がある。生涯学習課の方としては、今のように地域コーディネーターが行っている。両者がうまくリンクしながら融合しながら、やっていただけると、本当にもっと強力なものになるかなと思う。

(2) 令和6年度社会教育関係事業計画及び予算について

【資料4-1・2、5】

事務局から、令和6年度社会教育関係事業及び予算について、資料4-1、4-2、資料5「令和5年度生涯学習講座実施状況」をもとに説明を行った。

令和6年度事業について、講座については概ね例年並み、社会教育委員会議の事業費については、県社会教育委員連絡協議会地区研究会の会場が当たっているため、準備のための会議回数増、及び会場借上げ料の増を予定。社会教育団体の補助金についてはPTA家庭教育学級、子どもSOS事業補助金については例年通り、「大磯町単位子ども会事業費補助金」については、子ども会そのものの解散や、子ども会の解散に伴い子ども育成事業を各自治会が行っている地区もあるという実態から、単位子ども会に限らず、子ども育成事業を行っている自治会での事業にも補助をする形に要綱を改正する予定。

委 員) 子ども会がなくなっているということだが、スポーツ団体や様々な団体があるので、そういった団体への助成は考えていないのか。

事務局) まずは既存の子ども会活動の運営が地区に移っているということ踏まえ、地区での子ども育成活動を対象として考えたい。いずれ、補助の拡充という意味で、委員から御意見のあったような青少年育成団体に対しても検討を行う可能性はある。

委 員) 子ども会の在り方が地区ごとに異なっており、自主的に加入する地

- 区もあれば、町内会に加入したら同時に強制的に加入という地区もある。家庭の事情も一人親家庭など色々な状況があり、一方で地区の仕事も増えている中で、地区の青少年育成活動を大磯に合った形で支援してほしい。
- 委員)すでに子ども会と自治会と一緒に活動を行っている地区に住んでいるが、様々な活動を行っているが、課題はお金の問題ではなく、人や労力の問題が大きい。
- 委員)青少年育成活動は、適性を見極めて、やれる人にやってもらう方が良い。
- 委員)青少年育成活動の地域学校協働活動への移行も念頭に置いてよいかもしれない。

(3) 令和6年度県社会教育委員連絡協議会地区研究会について

【資料6】

・アンケート結果と今後の方向性について

議長から、令和6年度地区研究会大磯町会場で行う内容について委員に行ったアンケート結果の報告と今後の発表準備について検討。

議長)令和6年度県地区研究会について、例年秋ごろと年明けに開催されている。来年度同じく開催予定の海老名市が11月を希望ということなので、県・町事務局と相談し、1～2月で調整中。会場についてはプリンスホテルを希望。

町社会教育委員へ地区研究会での発表内容について検討を行うにあたり、昨年度の愛川町と箱根町の地区研究会の概要を確認。大磯町第三次生涯学習推進計画の内容を踏まえた形で発表を行いたい。社会教育委員が全てに関わるというよりも、計画に示されている施策の方向と主な施策の展開に「地域の特色を継承する学び」や「現代的課題を解決する学び」について意見が委員の皆さんからでてきている。これらの意見をまとめた資料について加藤委員から補足をお願いしたい。

委員)人権講話について、ウェルビーイングについて、中学生を対象に、主観的に人生についてどれだけ満足しているか、今の自分の満足について、基礎調査を行い、自分が住む大磯町に対してもこういうところが好きとか魅力を感じているということに合わせて調査を行い、同時に生涯学習講座の参加者にもアンケートを行うことで、生涯学習に関わる方のウェルビーイングが高いという仮説のもとに検証し、発表してみるのはいかがでしょうか考えている。

委員)すごくいいと思う。青少年に関わる活動を長年行っているが、今の子ども達は自分に対して自信がなかったり、色々な課題を抱えている。子

ども達に、もっと色々なことができるという希望を話してほしい。

委員) 子どもたちと関わるイベントに関わり、子どもなりに理解して、自分達で考えてやっている姿をみて、大人が思っているよりも子ども達が色々なことを感じて考えていることをみんなに知ってほしい。

議長) 人権講話については、もう一人バズーカ岡田さんを候補に挙げていただいたので、委員から説明をお願いします。

委員) 講話でどんな方がいいかな、と考えると、バズーカ岡田さんはトップアスリートのお話だったり、体力作りの提案指導といったお話がきけたり、中学校の部活動問題もあるので、広い意味で講話していただけたらいいなと思い提案した。

議長) なかなかユニークで面白い方だと思うが、謝金が必要となるので、申し訳ないが予算的に折り合いが難しい。そういったところも含めて、もし皆さんの総意で加藤委員をお願いすることを、決めてよろしければここで決めさせていただきたい。なお、池田委員からは、先日直接お話を伺い、人権教育に大変詳しく、お話もお上手だということで町教育委員会教育研究所の所長をされている鈴木義邦氏の御推薦があったが、委員長に一任するというお話であった。今回は、ウェルビーイングという今を象徴されるテーマを出されている加藤委員をお願いしたいと思うが、如何か。

(委員承認)

議長) 発表について、委員の皆さんからの意見を見ていきたい。始めに骨太体操を御提案いただいているが、平成20年度の発表でも行っているため今回は見送らせていただきたい。アイスブレイク的なものを取り入れるのは面白いかもしれない。また、町立中学校の吹奏楽部による発表を御提案いただいているが、平日で通常授業がある時間帯であり、楽器の運送費用の負担が必要となってくるので、別の機会とさせていただきたい。

次に、お祭りについて意見をいただいている。左義長を平成21年度に研究発表しているが、今回の参加者は変わっているだろうし、大磯にとって必要だと考える。お祭りやお祭りの太鼓の練習をきっかけに地域がどのようにつながっているか、大人と子どもの関りや、メッセージ性が大事だと思う。お祭りに参加した子どもたちの声などを取り上げて事例発表をできると思う。また観光用の動画などを使い紹介できると思う。

委員) 3年間コロナ感染症対策で集会できなかつたことから、お祭りの継承が難しい。新しく入ってきた人も多くおり、これまでは毎年道具を点検して、修理しながら、次の人達に継承しながらやってきたが、お祭りの関係者からこの3年間ですごく長かったと聞いた。伝統を守ることを地域がやっているというのも伝えていければよいと思った。

議 長) 高校生ボランティアの活動については、高校生たちの意見をまとめる先生がすごい。大磯町民の高校生で、様々なボランティア活動に参加している方が、参加している活動の一つで夏に平塚で障がい者向けのお祭りを開催している。このように一人で色々な活動をしているということは大事だが、ここで発表する対象とするのは違うかもしれない。また、町内で活動している「さざれ石学生英語ガイドボランティア」についても、似ているかもしれない。

委 員) 大隅万里子さんに自作絵本の読み聞かせをしていただきたいというアイデアがでていますが、昨年図書館で講演会をしていただいている。現在平塚で戦争のことを語り継ぐという会があり、そちらを中心に行っており、読み聞かせより紙芝居。

議 長) 今年度地区研究会の開成町、寒川町いずれも読書活動をテーマに挙げていて、皆さん重要な文化として捉えていると思う。こちらのアイデアについては、お話し会をされている方々の紹介なども大磯の地域らしさになると思う。次に地域学校協働活動について、大磯小学校で、地域コーディネーターが学校に人材を紹介し10分間講話という企画を実施している。ここでお話をする予定の方など、地域学校協働活動に関する内容もどうかと思う。中学生の職場体験なども行っており、発表題材の一つの選択肢と考えている。大磯の歴史について、社会教育委員会議から、郷土資料館の委員を推薦しているので、郷土資料館や歴史について、大磯の歴史探訪のような形で1つどうかと考えた。

皆さんからの意見をまとめ4つに区分し、それぞれの担当者も決定。

○今の大磯を紹介するものとして、大磯オープンガーデン、うつわの日、ぷちおおいそ等の活動、高校生の活動、地域学校協働活動。[担当：野口委員、織戸委員]

○スポーツを通じたつながりとして、チャレンジフェスタ、骨太体操。[担当：瀬戸委員、土方委員]

○生涯学習の充実として、読み聞かせボランティア。[担当：池田委員、上野委員]

○おおいそ歴史を紹介するものとして、お祭りの太鼓、大磯ガイド協会・大磯町観光協会等の取組み、大磯町郷土資料館の取組み。未来に繋がるものとして私たちもその文化を守っていこうというメッセージを発信したい。
[担当：石塚委員、荻原委員]

○人権講話 [担当：加藤委員]

○全体のテーマは、第三次生涯学習推進計画スローガンが「町民一人ひとりが継承した文化、自然に誇りを持ち、自らの学びの楽しみを伝え、学びを

地域に生かすまち おおいそ」。となっているので、これを掲げて良いと
考えている。

○アトラクションとして、ガイド協会にステージ上で、スライドショーや動
画を見せながら町内の案内をしてもらうのはどうかと考えている。

(4) その他

藤塚松星氏、重要無形文化財（人間国宝）認定。（10月18日）

次回 3月22日（金）開催

3. 閉会

副議長挨拶

委員方の様々な意見を聞き、教育大綱の、みんながワクワクするまち大磯の
そのワクワクというものが、何かこうやりたいなやったらできたなっていうの
は、子どもができるといいのかなと、腑に落ちた。

地区研究会に向けて、皆様で力を合わせて発表の方を成功させていけたら
いいと思っている。